

昭和館館報

令和2年度

口 絵		(3) ホームページ運用管理	18
ごあいさつ	1	(4) SNSの活用	19
フロア構成	2	(5) Wi-Fi提供	19
年間主要行事	3	2 オーラルヒストリーの製作	19
令和2年度事業概要	5	IV 啓発広報等事業	22
I 展示事業	5	1 広報活動	22
1 常設展示	5	(1) 広報資料の作成及び発送	22
(1) 常設展示室の概要	5	(2) 広報と掲示及び掲載	22
(2) 展示替え工事の実施	5	(3) 昭和館だよりの発行	22
(3) 展示資料の入れ替え	5	(4) 戦中・戦後の労苦を伝える語り部事業	22
2 巡回特別企画展の開催	6	(5) 第19回昭和館見学作文コンクール	24
第37回巡回特別企画展		(6) 第13回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール	24
戦後75年3館連携企画「未来へつなぐ戦中・戦後の記憶」		2 『昭和の暮らし研究』の刊行	25
「くらしにみる昭和の時代 岩手展」	6	3 昭和館運営専門委員会の開催	26
第38回巡回特別企画展		4 昭和館運営有識者会議の開催	26
「くらしにみる昭和の時代 鳥取展」	7	5 インターンシップ	27
3 貸出キット	8	6 関係施設等連携会議の開催等	27
4 紙芝居定期上演会	8	(1) 第18回、第19回会議を開催	27
5 教員のための博物館体験	9	(2) 3館連携「夏休み3館めぐりスタンプラリー」	27
6 実物資料の収集と保存	9	(3) 移動教室「宮崎静夫展 友を悼む」	
(1) 実物資料の収集	9	開催時の連携企画	27
(2) 実物資料の保存と補修	9	(4) 巡回特別企画展の相互協力	27
7 巡回特別企画展関連のオーラルヒストリー制作	9	V 特別企画展等の開催及び概要	28
II 図書映像資料等閲覧事業	10	1 戦後75年特別企画展	
1 図書文献関係	10	「占領から独立までの軌跡 1945-1952」	28
(1) 運用管理	10	2 特別企画展	
① 閲覧室及び書庫の管理	10	「丈夫なからだで病を防げ！	
② レファレンス・サービス(参考調査業務)	10	～健康づくりと感染症予防～」	30
③ 利用ガイドの発行	10	3 特別企画展のYouTube公開	31
④ 展示関連図書の公開と参考図書リストの配布、読書案内	10	4 1階ロビーでの資料展示	31
⑤ ホームページ	11	5 写真展 戦後75年特別企画展	
⑥ 蔵書点検及び4階書庫内電動書架の改修工事	12	「東京情景 - 師岡宏次がみた昭和 -」	32
⑦ 利用状況	12	6 写真展	
(2) データ管理	13	「マンガ『風太郎不戦日記』を	
① 収蔵図書のデータ管理	13	通して知る戦時下のくらし」	33
② 目次データ入力	13	7 資料公開コーナー	34
(3) 保存管理	13	8 5階ギャラリー展示	34
(4) 業務研修	13	参考	
2 映像・音響関係	14	1 昭和館入場者状況の推移(平成11年度～令和2年度)	35
3 ニュースシアター	14	2 令和2年度利用者実績	36
4 収蔵資料	15	3 常設展示室入場者数	36
(1) 図書資料の収蔵状況	15	4 来館団体御芳名	37
(2) 映像・音響資料の収蔵状況	16	5 第13回昭和館中学生・高校生ポスター	
III 関連情報提供事業	17	コンクール入賞作品の紹介	38
1 運用管理	17	6 施設概要	39
(1) システム運用管理	17	7 令和2年度寄贈者御芳名	41
(2) データベース運用管理	18		

口 絵
外観写真





廢墟からの出発
Departing from the ruins

- 戦後の食糧事情
Postwar food situation
- 戦後の住宅事情
Postwar housing situation
- 闇市
Black market
- 混乱期の生活
Life in a period of confusion

6階 常設展示室「廢墟からの出発」

終戦後の銀座四丁目付近 昭和20年(1945)11月頃 菊池俊吉撮影



6階 常設展示室「子どもたちの戦後」青空教室（制作：安部朱美）



6階 常設展示室「復興にむけて」ミッチー・スタイル（復元）



5階 映像・音響室



4階 図書室



1階 昭和館懐かしのニュースシアター



2階ひろばにて
紙芝居定期上演会



戦後75年特別企画展
占領から独立までの軌跡 1945-1952
(令和2年7月18日～9月6日)



特別企画展
丈夫なからだで病を防げ!〜健康づくりと感染症予防〜
(令和3年3月13日～5月9日)



昭和館、しょうけい館、平和祈念展示資料館
戦後75年3館連携企画展 「未来へつなぐ戦中・戦後の記憶」
「くらしにみる昭和の時代 岩手展」
盛岡市民文化ホール 展示ホール（マリオス4階）
（令和2年10月2日～10月11日）



巡回特別企画展「くらしにみる昭和の時代 鳥取展」
鳥取県立博物館 第3展示室
（令和2年10月24日～11月3日）

ご あ い さ つ



昭和館は、国民が経験した戦中・戦後の生活に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示して、国民生活上の労苦を次世代の人々に伝える国立の施設として平成11年3月開館。令和3年3月に総入館者数は630万人を超えました。

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2月からの臨時休館に伴い6月2日から開館となりました。開館後も感染防止対策を徹底するため、イベント、研修等の開催については中止または延期の決断をせざるを得ませんでした。

一方、令和2年は戦後75年にあたることから、特別企画展「占領から独立までの軌跡 1945－1952」（7月～9月）は感染防止対策を徹底した上で開催し、2階ひろばでの特別企画写真展「東京情景 一師岡宏次がみた昭和」は、3月から12月まで2期に分けて開催。第1期は4月、5月は感染拡大防止のため休止したものの、6月から再開し7月まで、第2期は12月まで開催しました。

常設展示室、映像・音響室、図書室、ニュースシアター、資料公開コーナーについては、感染防止対策を講じながらほぼ通常どおり実施し、中学生・高校生ポスターコンクール、紀要「昭和の暮らし研究」発刊などを行いました。

しかし、こども霞が関見学デー、夏休みスタンプラリーは中止したほか、奇数月に実施してきた紙芝居の上演会は年2回のみで開催にとどまり、作文コンクールについては、応募者数が例年に比べ激減したため、審査は行わず応募者全員（6名）を昭和館特別賞とし記念品を贈呈しました。

また、次世代の『語り部育成事業』では、二期生・三期生の研修を3月から6月まで休止し、語り部による定期講話会については6月から、講話派遣についても7月から実施しました。

巡回特別企画展については、実施が危ぶまれる中、10月に岩手県（盛岡市）、10月から11月にかけて鳥取県（鳥取市）で開催し、岩手県では「しょうけい館」・「平和祈念展示資料館」との3館同時企画展を同一会場、同一期間で実施することができました。

これもひとえに関係各位の御支援・御協力の賜物であり、心より御礼申し上げます。

さらに、本年3月から5月にかけて開催予定としていた特別企画展「丈夫なからだで病を防げ！～健康づくりと感染症予防～」、写真展「マンガ『風太郎不戦日記』を通して知る戦時下の暮らし」は、4月23日の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発出に伴い、4月25日から臨時休館とし展示も終了となりました。

6月1日から博物館等に対する休業要請が切り替わったため、昭和館としては、検温、マスクの着用、入館者の制限など新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じることにより事業を再開しています。

今後とも、コロナ禍の難しい状況下ではありますが、次の世代、特に小・中学生など若い世代の皆様は戦中・戦後の労苦を継承していくため、各種資料の収集充実に努め、更に魅力ある企画展の開催と様々な観点からの情報提供等が出来るよう、館の運営に励んで参りますので、一層の御支援、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年7月

昭和館

館長 羽毛田 信吾

フロア構成

常設展示室（入口）

7階

常設展示室（出口）

6階

映像・音響室

5階

図書室

4階

研修室・会議室

3階

広場

2階

ニュースシアター・資料公開コーナー

1階

資料収蔵室

地下1階

設備管理室

地下2階

年間主要行事

令和2年	
2月28日～6月1日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館
3月14日～5月10日	特別企画展（臨時休館のため公開できないまま終了） 「SF・冒険・レトロフューチャー ～ぼくたちの夢とあこがれ～」
3月20日～7月12日	戦後75年特別企画写真展を開催 「東京情景―師岡宏次がみた昭和―」 第1期：「戦争への不安と人びとの暮らし」 *4月1日～6月1日感染予防対策のため休止
4月29日	「昭和の日」記念イベント（中止）
6月	令和2年度第1回昭和館運営専門委員会を书面決議により実施
7月～9月	「夏休み3館めぐりスタンプラリー」（中止）
7月18日～9月6日	戦後75年特別企画展 「占領から独立までの軌跡 1945-1952」
7月18日～12月20日	戦後75年特別企画写真展を開催 「東京情景―師岡宏次がみた昭和―」 第2期：「焼けあとからの出発」
7月27日～7月29日	常設展示室の資料交換を実施（休室）
8月	「こども霞ヶ関見学デー」（中止）
8月15日	「戦没者を追悼し平和を祈念する日」
10月2日～10月11日	第37回巡回特別企画展を開催 戦後75年3館連携企画展「未来へつなぐ戦中・戦後の記憶」 くらしにみる昭和の時代 岩手展
10月16日	第18回関係施設等連携会議を開催
10月24日～11月3日	第38回巡回特別企画展を開催 くらしにみる昭和の時代 鳥取展
11月28日	紙芝居定期上演会
令和3年	
1月5日～1月15日	常設展示室の展示替えを実施（休室）

2月16日～2月28日	図書室の蔵書点検・資料整理を実施（休室）
2月	第19回関係施設等連携会議を書面決議により実施
2月	令和2年度第2回昭和館運営専門委員会を書面決議により実施
3月1日	紀要「昭和のくらし研究」（第19号）を刊行
3月10日	第21回昭和館運営有識者会議を開催
3月16日～3月19日	映像・音響室の資料整理を実施（休室）
3月13日～5月9日	特別企画展 「丈夫なからだで病を防げ！～健康づくりと感染症予防～」 *令和3年4月25日から緊急事態宣言の発令により 臨時休館となったため、4月24日をもって終了
3月20日～5月9日	写真展 「マンガ『風太郎不戦日記』を通して知る戦時下のくらし」 *令和3年4月25日から緊急事態宣言の発令により 臨時休館となったため、4月24日をもって終了
3月27日	紙芝居定期上演会

令和2年度事業概要

I 展示事業

展示事業では、戦中・戦後の国民生活上の労苦を伝える実物資料等の常設展示を行うとともに、関連する資料の収集、保存、管理を行っている。

また、特別企画展や巡回特別企画展等を開催した。

(「V 特別企画展等の開催及び概要」参照)

1 常設展示

(1) 常設展示室の概要

7階及び6階の常設展示室においては、多くの国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えるための展示を行っている。

7階では、戦争が激しくなる少し前の昭和10年(1935)頃から、昭和20年(1945)8月15日までの戦中の暮らしを、6階では終戦から『経済白書』に「もはや戦後ではない」と記された昭和30年(1955)頃までの戦後の暮らしを、それぞれ多くの実物資料とともに写真・映像資料、図解資料等を併せて展示し紹介している。

(2) 展示替え工事の実施

令和3年1月5日(火)から1月15日(金)にかけて、7・6階常設展示室を休室し第10回常設展示室展示替えを実施した。

6階常設展示室第5ブース「廃墟からの出発」の展示エリア拡充を目的として、大型写真パネルの差し替え、新項目「戦災復興」の設置、汎用性の高い覗きケースを新設した。「戦災復興」コーナーでは、漫画家麻生豊による『銀座復興絵巻 第一集 昭和21年』(巧芸版)をパネル化し、戦後の配給や闇市の様子などを図解でわかりやすく説明している。

(3) 展示資料の入れ替え

長期展示による資料の劣化を避け、また、できるだけ多くの方々からの寄贈資料を紹介するため例年2回、常設展示室を休室して1月と6月に展示資料の入れ替えを行っている。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館の影響を受け、例年は6月に実施する資料交換作業を7月に延期した。

令和2年7月27日(日)から7月29日(水)までの3日間、資料交換作業を実施し、令和3年1月5日(火)から1月15日(金)にかけて、

第10回常設展示室展示替えにともなう資料交換作業を実施した。

2 巡回特別企画展の開催

遠方に在住する方々の便宜を考慮し、さらに幅広い広報活動の一環として、年2回の巡回特別企画展を開催している。

令和2年度は、次の通り実施した。

(1) 第37回巡回特別企画展

昭和館、しょうけい館、平和祈念展示資料館

戦後75年3館連携企画展「未来へつなぐ戦中・戦後の記憶」

「くらしにみる昭和の時代 岩手展」

開催期間 令和2年10月2日（金）～10月11日（日）

会場 盛岡市民文化ホール 展示ホール（マリオス4階）

主催 昭和館、しょうけい館、平和祈念展示資料館

共催 岩手県 盛岡市

後援 岩手県教育委員会 盛岡市教育委員会 岩手日報社

岩手日日新聞社 盛岡タイム社 デーリー東北新聞社

読売新聞盛岡支局 朝日新聞盛岡総局 毎日新聞盛岡支局

産経新聞盛岡支局 共同通信社盛岡支局 NHK 盛岡放送局

テレビ岩手 IBC 岩手放送 めんこいテレビ 岩手朝日テ

レビ エフエム岩手 ラヂオ・もりおか 岩手ケーブルテレビ
ビジョン

協力 一般財団法人岩手県遺族連合会及び一般財団法人日本遺族
会第1ブロック

内容 終戦から75年を迎える節目の年に、東京の国立施設である
昭和館、しょうけい館、平和祈念展示資料館が合同で展示会
を開催した。

昭和館のコーナーでは戦中・戦後の岩手県に関連する実物
資料や写真を通し、人々のくらしという視点から昭和の時
代を紹介した。岩手特設コーナーでは浅野七之助、横田チ
エといった、終戦直後の人々の生活を支えた岩手の先人に
ついて紹介した。

同時開催 今年度は「3館連携企画展」として、しょうけい館「し
ょうけい館（戦傷病者史料館）～岩手展～」、平和祈念展示資
料館「平和祈念展 in 盛岡」を同会場で開催した。

入場者数 1, 293人（約144人/1日）

(2) 第38回巡回特別企画展

「くらしにみる昭和の時代 鳥取展」

開催期間 令和2年10月24日(土)～11月3日(火)
 会場 鳥取県立博物館 第3展示室
 主催 昭和館
 協賛 一般財団法人鳥取県遺族会及び一般財団法人日本遺族会
 第4ブロック
 後援 鳥取県 鳥取県教育委員会 鳥取市 鳥取市教育委員会
 新日本海新聞社 朝日新聞鳥取総局 毎日新聞鳥取支局
 読売新聞鳥取支局 山陰中央新報鳥取本社鳥取総局
 NHK 鳥取放送局 山陰放送鳥取支社 日本海テレビジョン
 放送 山陰中央テレビ鳥取支社 日本海ケーブルネットワ
 ーク テレビ朝日鳥取支局 FM鳥取 エフエム山陰鳥取支社
 内容 戦中・戦後の鳥取県に関する実物資料や写真を通し、人々の
 くらしという視点から昭和の時代を紹介した。特設展示とし
 て、昭和館所蔵の高橋春人ポスターコレクション、米子市在
 住の人形作家・安部朱美制作の新作人形、漫画家・こうの史
 代の原画作品を展示した。
 入場者数 4,711人(約471人/1日)

巡回特別企画展

岩手展

鳥取展

3 貸出キット

令和2年度の貸出状況は、次の通りである。

＜貸 出 先＞（貸出実施順）	
（学校） 12校	
雲仙市立千々石中学校／枚方市立長尾小学校／板橋区立成増小学校／東村山市立東村山第三中学校／白井市立白井第一小学校／富士見市立水谷中学校／千葉市立打瀬小学校／川崎市立宮内小学校／葛飾区立宝木塚小学校／品川区立第二延山小学校／茗溪学園中学校／葛飾区立上小松小学校	
（地方公共団体） 7自治体	
埼玉県三郷市役所／八王子総務部総務課／府中市文化スポーツ部文化生涯学習課／上尾市／横須賀市役所市民部市民生活課／台東区役所総務部／日野市	
（一般団体） 8団体	
大森コラボレーション／浜松市遺族会／一戸町立図書館／江戸川区立小松川図書館／石川県遺族連合会／稲敷市歴史民俗資料館／石川県遺族連合会／潮来市立図書館	

4 紙芝居定期上演会

当館が所蔵する紙芝居を使い、紙芝居師が実演する上演会を奇数月第4土曜日に実施している。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年5月・7月・9月・令和3年1月は上演会を中止した。

入場者の状況は以下の通りである。

上 演 月	入 場 者
令和2年 5月23日	中 止
7月25日	中 止
9月26日	中 止
11月28日	44人
令和3年 1月23日	中 止
3月27日	223人
合 計	267人

5 教員のための博物館体験

例年、学校と博物館の連携を図ることを目的に、小中高校の教員を対象とした博物館見学を夏休み期間に実施してきたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止した。

6 実物資料の収集と保存

(1) 実物資料の収集

令和2年度は収蔵庫の整理に注力し、資料収集については最小限にとどめた。収蔵機能が改善し収蔵スペースが確保された段階で、資料収集を再開する予定である。

収蔵資料数は次表の通りである。 (令和3年3月末現在)

寄 贈 資 料	46,309点
購 入 資 料	14,645点
厚生労働省からの無償貸付資料	3,243点
寄 託 資 料	485点
合 計	64,682点

(2) 実物資料の保存と補修

実物資料の保存環境を改善するため、収蔵庫の調湿機能の向上に努めている。資料の保存容器を中性紙箱に差し替えるとともに、紙資料の酸化劣化を防ぐため、順次ポスター資料から脱酸処理を実施している。令和2年度は12点のポスター資料の修復および脱酸処理を行った。

7 巡回特別企画展関連のオーラルヒストリー制作

巡回特別企画展の開催を予定している都道府県に関連する、戦中・戦後の労苦体験をされた方々の証言を聞き取りし、撮影・制作した「オーラルヒストリー」を巡回特別企画展会場で上映している。

令和2年度は、令和3年度の巡回特別企画展の開催予定地である兵庫県と島根県に関連した「オーラルヒストリー」を制作した。

作品タイトル	証言者
九州での軍隊生活と神戸で過ごした学生生活 (仮)	平田 二郎
呉海軍工廠での空襲体験	桑原 弘
終戦、そして古書店主となって見た戦後	桑原 弘
戦中に出雲の学校生活、そして戦後	池橋 達雄

Ⅱ 図書映像資料等閲覧事業

1 図書文献関係

(1) 運用管理

① 閲覧室及び書庫の管理

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、図書室は6月1日まで休室とし、6月2日から再開した。当初は開架資料のみの利用とし、新聞、週刊誌、雑誌、閉架資料、室内の検索端末・『戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム』等のデータベースの提供を中止した。また、利用済みの本は、一定時間別室にて保管してから配架することとした。

閲覧機をアクリル板で仕切って座席数を制限し、定員を12名とした。

8月からは閉架資料の提供を冊数制限付き（5冊）で再開し、来館者検索端末の1台を再稼働した。

10月には定員を22人までとし、閉架資料の利用冊数を10冊までに増やした。さらに来館者端末を2台稼働とし、新聞紙、週刊誌、『戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム』等のデータベース提供を再開した。

利用頻度が高い基本図書や新刊書、総合的な内容をもつ図書を中心に開架図書とし、利用状況に応じて随時調整している。

閉架図書は比較的利用頻度の高いものは4階書庫、その他は地下書庫に収蔵し、劣化の激しい図書は保管庫で別置保存している。

閲覧室入口付近の展示ケースでは、様々なテーマに沿った資料紹介を行っている。

② レファレンス・サービス（参考調査業務）

感染拡大防止のため対面での対応を避け、電話、メール等での対応とした。令和2年度のレファレンス・サービスは119件で、特に8月に多かった。内容は多岐にわたるが、8月は日の丸寄せ書きや配給通帳、学徒・勤労働員など、新聞社からの戦争関連記事執筆のためのレファレンスが多かった。

レファレンスの内容は随時蓄積し、利用ガイド等に反映させるよう努めている。

③ 利用ガイドの発行

レファレンスの内容に基づいて利用・検索の方法や、所蔵図書を紹介する「ぶらりらいぶらりい」を毎月発行し希望者に配布している。休室中は配布せずに、ホームページに掲載した。

④ 展示関連図書の公開と参考図書リストの配布、読書案内

来館者が特別企画展等の展示内容についてより一層理解が深められ

るよう、展示テーマに即した図書・雑誌を閲覧室内に展示し、気軽に手にして閲覧できるコーナーを設けている。休室中は中止した。

昨年度からの継続企画コーナー「あなたの出身地は？昭和館で見られる47都道府県の資料」では、2カ月ごとに資料の入れ替えを行っているが、今年度は巡回特別企画展を開催した岩手県、鳥取県を含め5県の関連資料を紹介した。

継続企画以外でも、大人から子どもまでを対象に話題になっている事柄に関連する図書等を紹介した。今年度は、昭和の住宅、戦争と読書、ニッポンのモノづくり、逝去した人物（半藤一利、安野光雅、浅香光代、小松政夫、花村えい子、大城立裕等、計21名）、テレビや映画関連では、NHK連続テレビ小説「エール」、「おちょやん」に関する資料等を取り上げた。

また、特別企画展及び写真展、資料公開コーナー等の内容と連動した図書・雑誌の公開も行っており、「江利チエミと戦後音楽」、「健康づくりと感染予防」、「昭和20年の日記」等の関連資料を紹介した。

令和2年7月18日（土）から9月6日（日）まで、感染対策を講じたうえで、小学校高学年から中学生を対象に「夏休みの宿題・研究用図書リスト」を作成して希望者に配布するとともに、ホームページにも同リストを掲載し、利用の便を図った。

また同期間、小学生を対象にした「夏休みワークシート」も配布し、調べ学習の実践を推進した。過去に作成した「学校生活」「学童疎開」「空襲」「昭和20年終戦の年」「くらしの道具」「動物たちと戦争」を配布した。挑戦した子どもたちには、読書手帳や図書室オリジナル缶バッジ等の記念品を贈呈した。

令和3年2月には、平和祈念展示資料館が九段生涯学習館にて開催した「宮崎静夫展 友を悼む」に関連して、関連本コーナーを設ける等、館内外との協力・連携をはかった。

⑤ ホームページ

図書室の紹介ページでは、開架図書を書架ごとに紹介するとともに、閲覧室内で紹介している資料の入れ替えごとに掲載し利用を促している。

「ぶらりらいぶらりい」を定期的に更新しているほか、「本に関するお問い合わせ」では、利用者からのレファレンス等を随時受け付けている。

資料募集のお知らせを掲載し、広く資料の寄贈を呼びかけている。

蔵書検索ページは、毎月データを更新し、館外からも検索できるようにしている。蔵書検索は横断検索もできるほか、タイトルや著者名、フリーワードでの検索等さまざまな方面からできるようにしている。あわせて、過去のレファレンス事例もキーワードで検索して見るができるようにしている。

⑥ 蔵書点検および4階書庫内電動書架の改修工事

令和3年2月16日（火）から3月1日（月）までの14日間、図書室を休室にし、蔵書点検を実施した。4階開架及び地下書庫内の和図書を重点的に点検し、破損が著しい図書の修理や製本を行った。点検の他、図書・雑誌の増加にともない、蔵書の移動を行った。

4階書庫内の電動書架については平成11年の開館以来、本格的なメンテナンスを20年以上行っていなかったため、経年劣化による書架の歪みなどが原因となって動作が停止してしまう事象が頻発していた。

今回の蔵書点検期間中に電動書架全21基のモーターおよびスイッチ基盤の交換、書架の歪み補正等の改修工事を実施し、不具合が解消した。

⑦ 利用状況

令和2年度 図書室入室者及び閉架資料利用状況（月別）

年月	入室者数	閉架資料	
		利用者数	利用冊数
令和2年4月	0	19	73
5月	0	14	64
6月	243	30	98
7月	292	11	35
8月	801	53	155
9月	413	95	268
10月	402	99	284
11月	536	113	440
12月	421	81	289
令和3年1月	352	84	314
2月	288	64	254
3月	823	107	426
合計	4,571	770	2,700

令和2年度 閉架資料の利用冊数（分野別）

分野	図書	雑誌
総記	79	571
哲学	15	3
歴史	385	88
社会科学	553	160
自然科学	38	11
技術・工学・工業	124	77

産業	56	38
芸術	88	141
言語	6	0
文学	243	13
合計	1,587	1,102

- ・ 図書の利用内訳は、「社会科学」では部隊史等を含む国防・軍事関係が多く、「文学」では体験記録・手記の利用が多かった。
- ・ 雑誌の「総記」には、週刊誌及び娯楽誌等の一般雑誌が含まれる。
- ・ 図書・雑誌以外では、地図10点が利用された。

(2) データ管理

① 収蔵図書のデータ管理

収蔵図書の書誌・所蔵データは随時点検、追加入力および修正作業を進めている。令和2年度は1,043冊の書誌データの入力と装備を行った。

② 目次データ入力

図書検索システムでは、図書の書誌・所蔵データの他に目次データも入力し、目次を含めた情報を検索対象として「ことば」検索に役立たせている。令和2年度は1,043件の目次データ入力を行った。

(3) 保存管理

資料の劣化に加え、閲覧やコピー利用による破損も増えつつあり、令和2年度は178冊の破損本を修理した。また状態が悪く劣化が激しい110冊に対し、外部委託による燻蒸処理を行った。

なお、劣化が激しく合本できない雑誌については中性紙保存箱で保存している。

(4) 業務研修

資料収集・整理・保存管理、情報提供等、図書館を取り巻く問題は、常に変化している。図書館業界や類似施設についての状況を把握し、今後の図書室の運営に反映させていくことを目的に職員業務研修に参加していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、研修会等の中止が相次いだ。

令和2年度の「日本図書館協会主催 第106回全国図書館大会」はオンライン録画での開催となったため、視聴によって業務の向上に努めた。

2 映像・音響関係

5階映像・音響室は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、6月1日まで休室とし、6月2日から再開した。休館中のゴールデンウィーク期間（令和2年4月25日～5月6日（水））には、「おうちで映像・音響室の資料を見てみよう！」と題してSNSを活用し、クイズ形式で写真、映像資料を紹介した。

「ニュース映画検索」「歴史的音源端末」「調べてみよう！端末」「類似施設検索端末」「試聴機コーナー」は提供を中止し、座席数を定員14名に制限した。利用端末を限定し、キーボードの提供は中止とした。資料寄贈等については対面での直接応対を避け、電話・メール等での対応とした。

7月18日（土）から開催した写真展「東京情景－師岡宏次がみた昭和－」にあわせ、5階映像・音響室入口前の大型テレビにて戦中・戦後の子どもたちの様子や銀座、浅草等の街の様子、その他写真展で取り上げたトピックに関する映像を紹介するとともに、展示作品以外の師岡宏次撮影写真の一部を公開した。

本写真については、昨年度寄贈されたネガコレクションの整理を進め、約9,700コマのデータ化を行い、順次公開していく予定である。

米国立公文書館から入手した映像については、昨年度入手分を館内アーカイブで公開し、館内で公開中の映像のうち58本を「昭和館 Youtube チャンネル」にて公開した。

また、第78回資料公開コーナー「戦後の日本人と米軍キャンプとの交流」の開催にあわせて、米国立公文書館から入手した新規写真748枚を公開した。日本各地の米軍キャンプの様子や地元の日本人と交流する米兵の姿が写し出されている。

さらに令和3年1月12日に亡くなった作家の半藤一利氏を追悼してオーラルヒストリーを紹介した。

3 ニュースシアター

戦前から戦後のニュース映画と新作のオーラルヒストリーを毎週4作品ずつ選定して毎日上映する「昭和館 懐かしのニュースシアター」は、令和2年度において181本のニュース作品と12作品のオーラルヒストリーを上映し、多くの来館者から好評を得ている。

また、令和2年2月6日（土）から2月19日（金）まで、平和祈念展示資料館の九段生涯学習館における特別展示「宮崎静夫展 友を悼む」の開催に伴い、抑留や引き揚げに関するニュース映像等を紹介し、各館の連携を図った。

4 収蔵資料

(1) 図書資料の収蔵状況

令和2年度は前年度に引き続いて、戦中・戦後の国民生活に関する図書・雑誌をはじめ、写真集や部隊史、少年少女雑誌・児童向け図書等を中心に収集した。収蔵概数は次表の通りである。(令和3年3月末現在)

国民生活関係図書	67,068冊
戦争に関する基本的図書	22,369冊
独自資料	35,980冊
その他基本図書	11,642冊
合計	137,059冊

<令和2年度の主な受入資料の内訳>

- 国民生活関係 1,903冊
 - ・ 当時刊行された雑誌類や生活体験記等
『週刊朝日 昭和20年8月26日 = 第47巻第34号』
『最新米英 新語略語集』
『学童疎開の傷あと；私が文学少女になった頃』
『SFメカニック・ファンタジー 小松崎茂の世界』等
- 戦争に関する基本的図書 594冊
 - ・ 太平洋戦争関連の基本文献、部隊史、戦争関連の体験記等
『大東亜戦争本土空襲全史』
『若松聯隊と在郷将校団教育』
『私の軍隊・シベリア体験記』
『忘れられぬ体験；市民の戦時・戦後記録：第1集』等
- その他 38冊
 - ・ 寄贈を受けた各類似施設の刊行物等
『2019年度「沖縄戦・ひめゆり学徒隊の歴史を海外に伝える展示プロジェクト」報告書』『東京都江戸東京博物館紀要』等
 - ・ 定期購読誌
『文藝春秋』『中央公論』『軍事史学』『丸』

(2) 映像・音響資料の収蔵状況

利用者が検索システムを利用して閲覧できる映像・音響資料の収集を進めている。令和2年度は、昨年度に引き続きカメラマンの師岡宏次氏が撮影した写真ネガ一式、令和元年度にオーラルヒストリーの撮影を行った川島東氏が撮影した写真他を入手し、館内アーカイブでの提供に向けて整理作業を進めている。

<令和2年度の受入資料>

(1) 記録写真	10,023枚
<主な資料>	
・師岡宏次氏撮影写真（昭和10年～40年頃の東京）	9,697枚
・個人寄贈写真 （学徒出陣体験者の写真、昭和38年の東京モーターショーの写真等）	202枚
・個人寄贈絵葉書 （警視廳警察練習所繪葉書、岩川町立青年學校繪葉書等）	124枚
(2) 記録映像	192本
<主な資料>	
新日本ニュース	32本
映像タイムトラベル（ドキュメンタリー映像コレクション）	147本
(3) 音響資料	5枚
個人寄贈のSPレコード	

<令和3年3月末現在の提供データ件数>

	データ件数
静止画資料	39,115件
動画資料	3,568件
音響資料	13,893件
計	56,576件

Ⅲ 関連情報提供事業

関連情報提供事業では、①昭和館が所蔵する図書資料、映像・音響資料の情報、②雑誌資料等をデータベース化した情報、③昭和館類似施設（国内110カ所）の基本情報を、それぞれ来館者が端末で利用できるよう提供している。

1 運用管理

(1) システム運用管理

来館者に総合データベース（図書雑誌目次情報、静止画（写真）、動画、音響）、個別データベース（戦史叢書・陸海軍部隊略歴、デジタル雑誌等）及び類似施設等の関連情報を提供している。来館者が様々な条件から資料を検索し、閲覧できる方法を採用している。

システム稼働は安定しており、ハードウェア及びデータ損傷等の大きなトラブルはなかった。さらに今年度は、機能追加、データ項目の追加等の改修を行い利便性や操作性を高めた。

令和2年度の各データベースへのアクセス数をまとめたのが次表である。アクセス総数は318,270件、月平均約26,523件で、多くの来館者に利用されている。

	図書	雑誌	写真	映像	音響	個別DB	月別合計
令和2年4月	1,069	330	2,253	379	22	10	4,063
5月	723	796	2,075	204	25	1	3,824
6月	933	1,768	16,488	3,030	925	0	23,144
7月	888	441	24,914	3,827	1,186	0	31,256
8月	1,696	844	27,204	6,687	3,358	0	39,789
9月	1,609	1,022	24,687	4,915	3,355	0	35,588
10月	2,155	1,022	45,836	5,424	3,214	89	57,740
11月	1,635	1,591	17,023	4,504	2,913	91	27,757
12月	1,840	1,175	15,218	3,817	2,171	53	24,274
令和3年1月	2,478	830	11,486	3,637	2,489	20	20,940
2月	1,051	855	17,673	4,726	2,457	15	26,777
3月	1,763	1,383	13,396	4,176	2,363	37	23,118
合計	17,840	12,057	218,253	45,326	24,478	316	318,270

(2) データベース運用管理

来館者閲覧用及び記録資料のデジタル化を進め、以下のデータベースを稼働させている。館内で職員が常に情報追加・更新を行っている総合データベースと、公刊戦史や部隊情報、雑誌をデジタル化した個別データベースに分けることができる。

- 収蔵図書・雑誌目次情報（総合データベース）
収蔵図書や雑誌の書名・著者名・雑誌名等書誌情報のほか、目次を全てテキスト入力しており、「目次情報」からも検索ができるようになっている。
- 収蔵映像・音響資料情報（総合データベース）
収蔵している静止画（写真）、動画及び音響資料(S P レコード)を、タイトルや作曲者名等の資料情報から検索でき、目的の映像または音楽を表示し、また視聴できるようにしている。
- デジタルライブラリー（個別データベース）
昭和館で独自に開発したデータベースで、年鑑と雑誌をデジタル化し、それぞれが検索でき、各雑誌間での横断検索も可能である。現在閲覧できる資料は「中央公論」「婦人公論」「写真週報」「文芸春秋」「改造」「防空新聞」「大毎小学生新聞」等
- 戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム（個別データベース）
防衛庁防衛研究所戦史室編纂の『戦史叢書』、厚生省援護局編纂の「部隊略歴簿」「艦船行動調書」等をデータベース化し、横断検索を可能にして、利用の便を高めている。

(3) ホームページ運用管理

開館時から引き続き昭和館ホームページの定期更新を行っている。

常設展示室の展示替えをはじめ、特別企画展や巡回特別企画展、写真展や資料公開コーナー等の展示案内、紙芝居の上演会やオーラルヒストリー特別上映会といった催し物の案内に加えて、語り部育成事業についても研修の様子や定期講和会や語り部派遣等の最新情報発信のため、月2～5回の内容更新を行った。さらに令和2年10月については、新型コロナウイルス感染防止対策の改定として臨時更新を行った。

令和2年度のアクセス数は次のとおりであった。

	アクセス数	月間平均アクセス数	開館時(or 導入時)からの累計
ホームページ	222,750	18,563	3,750,089
内「キッズナビ」	5,027	419	211,261

※キッズナビの導入は平成18年

(4) SNSの活用

広報の一環として、Twitter、Facebook、YouTubeでの情報発信を開始し、特別企画展をはじめとするイベントや図書室の資料紹介、所蔵映像等の情報を提供した。

令和3年3月末までのアクセス数等は、以下の通りである。

Twitter登録者数	フェイスブック閲覧者数	YouTube視聴回数
1, 563	14, 130	83, 041

(5) Wi-Fi提供

図書室、映像・音響室等での学習や調査研究を助けるため、外国人来館者へ向けたサービス向上のために1階ロビー、3階研修室、4階図書室、5階映像・音響室で提供をしている。

2 オーラルヒストリーの製作

戦中から戦後にかけての労苦を体験された方々の証言を、永く後世に伝えるため、「オーラルヒストリー」の制作を昨年引き続き実施した。

令和元年度にインタビュー、撮影を終えている話者2名（半藤一利氏、中田義直氏）については編集作業が終了し、5階映像・音響室での閲覧を開始した。

令和2年度は新型コロナウイルスの感染状況が沈静化しないため「東京近郊編」制作に替えて、貸出キット用オーラルヒストリーのリニューアル作業を進めた。既存の3作品「疎開体験編（7作品収録）」「空襲体験編（9作品収録）」「総集編（8作品収録）」については、これまでの映像に近年の作品を追加し、新たに「戦災孤児編」「動員学徒編」「戦没者の妻・子編」の制作を行った。

令和2年度の製作作品は以下のとおりである。

作品タイトル	証言者
10代の太平洋戦争<終戦日までの日々編>	半藤 一利
人生を変えたアメリカ留学	中田 義直

貸出キット用オーラルヒストリーのリニューアルで新規に製作した作品は以下のとおりである。

「疎開体験編 パート2」 10作品

作品タイトル	証言者
3度の学童疎開	中野 貞三
24人の疎開児童を迎えて	山崎 二良
鶴岡での疎開生活	草薙 みさ子
身延への集団疎開と焼け跡の東京	齊藤 雅生
疎開先で病気に・・・	川田 洋子
疎開先、新井町での思い出	月村 泰之 井上 實 山本 勇蔵
10歳の少女の疎開と戦中・戦後の生活	島本 京子
二度の疎開と空襲、戦後の学生生活	臼田 禮子
戦後58年目の卒業式	三浦 和子
戦時下から復興へ	篠崎 喜美子

「空襲体験編 パート2」 8作品

作品タイトル	証言者
家族を奪った空襲 悲劇は忘れない	春成 幸男
東京大空襲、言問橋の惨状	辻 壽恵子
大阪と神戸、2度の空襲を乗り越えて	岡田 匠
機銃掃射で負傷した中学生	小向得 庇
加治木空襲を生き延びた中学生	今吉 孝夫
師範学校での勤労働員、空襲の体験	横山 譲二
高松空襲	喜田 清
10代の太平洋戦争<東京大空襲編>	半藤 一利

「総集編 パート2」 8作品

作品タイトル	証言者
焼け跡からの出発	鈴木 喬
満洲から母子5人で引揚げ、そして戦後の苦労	櫻井 眞
戦中・戦後の母との暮らし	玉田 義郎
母の苦労と遺児としての暮らし	山下 裕子
戦後の沖縄を生きて	宮城 篤正
母を支え懸命に生きる	國政 隆昭
困難をバネにして	甘竹 勝郎
10代の太平洋戦争<終戦日までの日々編>	半藤 一利

「戦災孤児編」 7 作品

作品タイトル	証言者
孤独との戦いの日々	金田 茉莉
東京大空襲と私の戦後	元木 キサ子
野良犬と呼ばれた子どもの生きざま	山田 清一郎
逃げ出した三姉弟の行く末	星野 光世
両親を失った姉妹の戦後	高橋 喜美子 米川 琴
私にも家族があった！	高橋 明子
誰にも頼らず生き抜いて	石原 博

「勤労働員・学徒出陣編」 7 作品

作品タイトル	証言者
疎開先での勤労働員と戦後の神田	高野 登喜
動員学徒の青春	重原 正三
復員後、ハチ公像の再建	安藤 士
空襲、原爆の思い出	春藤 嘉雄
3度の空襲と食糧事情	辻 彌太郎
10代の太平洋戦争<中学校編>	半藤 一利
大学生活と学徒出陣	川島 東

「戦没者の妻・子編」 8 作品

作品タイトル	証言者
信じられなかった夫の戦死	瀬戸川 庸
母の苦労と父への想い	阿部 正子
半年きりの夫婦生活、手紙がつないだ父の想い	高橋 こと 真知子
母子で支え合った戦中・戦後	佐藤 サダ子 ヤス子
亡き夫と子どもと共に	石井 和子
母とくぐりぬけた沖縄戦	照屋 苗子
戦死の日に見た夫の夢と我が子への想い	柳田 喜美子
親子で耐えぬいた戦中・戦後	本多 和子

IV 啓発広報等事業

1 広報活動

(1) 広報資料の作成及び発送

「昭和館館報」については、都道府県、政令指定都市、東京特別区、教育委員会、老人クラブ連合会、各省庁図書館等に対して送付している。

なお、都道府県遺族会、類似施設、大学図書館等には「昭和館館報」と「昭和のくらし研究」を併せて送付し、当館の周知を図っている。

また、昭和館と学校をつなぐ広報誌「昭和館だより」第34号を令和2年6月下旬から7月上旬に関東の小学校（6年生）来館校、中学校（2年生）来館校、千代田区内の公立小学校（全校生徒）、東京都の校長会等で配布依頼した小学校（5年生）に発送した。

なお、全国の小・中・中等教育校に対しては令和2年6月に「昭和館だより」第34号、令和2年11月に「昭和館だより」第35号を送付し、当館の実施事業の周知を図ることに努めた。

(2) 広報と掲示及び掲載

当館の事業内容のPRのために、九段下駅4出口、東西線2番ホーム、半蔵門線3番ホームに電飾掲示板を設置して、九段下駅コンコース案内図に事業内容のPR活動を行った。さらに、JR飯田橋駅構内に電飾看板を掲示しJRの利用者にもPR活動を行った。

また、特別企画展開催等の際には、都営新宿線の車内に、窓上ポスターを掲示したり、千代田区コミュニティバスの時刻表や九段郵便局等にポスターを掲示する等PRに努め、消火栓標識看板にも掲出した。

なお、郵便局の利活用については、巡回特別企画展においても行った。

さらに、東京メトロ・東京都交通局一日乗車券特典ガイド「ちかどく」、東京観光バリアフリー情報ガイド、JTBや千代田区等のガイドブック、毎月発行される千代田区報に当館の紹介記事を掲載した。

その他、毎日新聞、読売新聞、産経新聞、東京新聞、埼玉新聞、日本教育新聞に広報記事を掲載した。

(3) 昭和館だよりの発行

昭和館の活動を学校等に随時伝えるため、広報誌「昭和館だより」第34号、第35号を、令和2年6月と令和2年11月に発行し、(1)に記載した教育関係機関に発送した。

(4) 戦中・戦後の労苦を伝える語り部育成事業

① 事業の概要

戦中・戦後の労苦を体験した者が高齢化する中、当時のことを語り継

いしていくことが難しくなっていることから、国民が体験した戦中・戦後のくらしの上での様々な労苦を後世に語り継いでいく、戦後世代の伝承者である「語り部」を3年計画で育成する事業を行っている。

② 事業の実施状況

ア 平成28年度に募集した1期生（11名）については、月1回のペースで研修（各期共通）を行い、これまで30回の研修を実施、令和2年3月に7名の研修生が修了した。

平成29年度に募集した第2期生（8名）については、これまでに19回の研修を実施したが、新型コロナウイルス感染防止に伴い、令和2年3月～6月の研修を中止とし、修了時期を延長して振替研修を実施した。令和3年2月までに36回の研修を行い、3月28日に6名の研修生が修了した。

平成30年度に募集した第3期生（7名）については、これまでに7回の研修を実施したが、第2期生と同様、令和2年3月～6月の研修を中止とし、修了時期を延長して振替研修を実施した。令和3年3月までに27回の研修を実施した。

イ 研修内容

* 1～2年目 : 語り部としての基礎知識研修、「家族の別れ」等テーマ別研修、話法・朗読技術の研修、体験談の聴講・体験者との交流等

* 2～3年目 : 語り部実演・発表によるスキルアップ等

ウ 講話派遣

1期生7名の「次世代の語り部」講話者は、館内で偶数月の第一日曜日に講話会を開催し、学校等で「次世代の語り部」講話派遣を行っている。実施状況は以下のとおりである。

	派遣先	聴講者数	開催日
1	世田谷区立経堂小学校6年生	100	令和2年7月15日
2	ブックハウスカフェ（神保町）	28	令和2年8月22日
3	ブックハウスカフェ（神保町）	17	令和2年10月31日
4	板橋区立上板橋小学校6年生	42	令和2年11月11日
5	国立音大附属中学校2年生	70	令和2年11月17日
6	墨田区立立花吾嬬の森小学校6年生	72	令和2年11月17日
7	学校法人北豊島高等学校2年生	82	令和2年11月24日
8	調布市立富士見台小学校6年生	81	令和2年12月18日
9	府中市立本宿小学校6年生	144	令和3年1月30日
10	埼玉県新座市立東北小学校6年生	119	令和3年2月17日
11	品川区立第二延山小学校6年生	105	令和3年3月9日

(5) 第19回昭和館見学作文コンクール

昭和館および巡回特別企画展を見学した小・中学生を対象に、見学作文コンクールを実施した。

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響を受けて、募集対象を「次世代の語り部」派遣を利用した小中学校にも拡大して周知を行った。

団体来館校が例年に比べて大幅に減少しており、1校の小学校(6年生)と2校の中学校(2・3年生)から計6作品の応募であった。応募数が例年に比べて激減したため、審査は行わず、応募者全員に「昭和館特別賞」の授与と記念品を贈呈した。

(6) 第13回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール

中学生・高校生を対象に、「昭和館を見学して、あなたが感じた戦中・戦後の暮らしをポスターにしてみよう」を募集したところ、合計113作品の応募があった。

審査の結果、広島県立尾道東高等学校 村上 桃花さんの作品が最優秀賞に(別掲)、優秀賞(別掲)に9作品、佳作に10作品が選ばれた。

第19回 昭和館 見学作文コンクール

応募締切 令和3年1月15日(消印有効)

応募資格
小中学生を対象に、小中学校の個人で見学した学校が対象。

応募様式
1) 縦書き(横書き可)のA4用紙に、見学の感想を自由に記述し、1枚に1作品を提出する。
2) 提出用紙に必要事項を記入して、作品と一緒に郵送する。
3) 応募作品は返送しない。応募作品は郵送する場合は、封筒に「見学作文コンクール」と記入する。

選考方法
一次選考で、佳作(2名)を選出。最優秀賞(1名)と優秀賞(1名)を選出する。
各賞の発表は、入賞した学校に通知し、校報(紙)に掲載する。
また、賞状・副賞は郵送する。優秀賞作品は昭和館ホームページに掲載する場合があります。

●最優秀賞(1名) ●優秀賞(1名) ●佳作(2名) ●最優秀賞(1名) ●優秀賞(1名) ●佳作(2名) ●最優秀賞(1名) ●優秀賞(1名) ●佳作(2名)

第19回昭和館見学作文コンクール応募用紙

氏名	〒	姓	名
住所	〒	姓	名
電話番号			
学校名			
学年			

作文コンクール

第13回 昭和館 中学生・高校生 ポスターコンクール

募集テーマ 昭和館を見学して、あなたが感じた戦中・戦後の暮らしをポスターにしてみよう。

募集期間 令和3年1/15(金)まで

最優秀賞
「昭和の子供の遊び」
広島県立尾道東高等学校 村上 桃花 さん

優秀賞
「昭和の別れ」
長崎県立長崎高等学校 永田 美結 さん

佳作
「戦中の子供の遊び」
山口県立萩高等学校 瀧田 結子 さん

昭和館は戦中・戦後の国民の暮らしを次の世代に伝える国立の施設です。

〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-1
TEL 03-322-2577 FAX 03-322-2575
Eメール https://www.showaok.jp

ポスターコンクール

2 『昭和のくらし研究』の刊行

昭和館の設立趣旨である「戦中・戦後の国民生活上の労苦を次の世代に伝える」紀要『昭和のくらし研究』第19号を令和3年3月に刊行した。

(平成15年度から年1回刊行)

目次は次の通りである。

『昭和館のくらし研究』第19号 目次

占領期写真の複合的活用に関する試み

— 一九四五年東京・銀座のケーススタディー —

早稲田大学社会科学総合学術院教授 佐藤洋一

NPO法人プラネット映画保存ネットワーク客員研究員 衣川太一

歴史資料保存運動野観点からみた戦争記録の現在地

— 島根県内の戦争・銃後体験記録収集事業の経緯 —

島根大学学術研究院人文社会科学系准教授 板垣貴志

戦前・戦中期における鼠防除の目的と方法

昭和館学芸部 高橋奈津子

昭和館所蔵 米国国立公文書館映像資料目録(1)

昭和館図書情報部 坂尻麻子



昭和のくらし研究第19号

3 昭和館運営専門委員会の開催

昭和館の事業計画の策定、事業の運営等に当たっては、開館以来「昭和館運営専門委員会」を年2回開催し、同委員会の意見を踏まえ、事業の充実推進を図っている。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年6月及び令和3年2月に書面決議により実施した。

昭和館運営専門委員会 委員名簿

(令和3年3月31日現在 50音順、敬称略)

委員長	宮 脇 岑 生	(元国立国会図書館副館長)
委員	赤 木 完 爾	(慶應義塾大学名誉教授)
〃	上 野 憲 示	(文星芸術大学名誉学長)
〃	加 納 正 弘	(元厚生労働省大臣官房審議官)
〃	鈴 木 淳	(東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授)
〃	関 沢 まゆみ	(国立歴史民俗博物館研究推進センター長)
〃	花 輪 隆 昭	(元昭和館館長)
〃	松 井 かおる	(江戸東京博物館学芸員)
〃	吉 藤 玲 子	(台東区立忍岡小学校長)

4 昭和館運営有識者会議の開催

昭和館の運営について、幅広い視野からの意見を得ながら、公正かつ中立的な運営を確保するため、平成15年4月から厚生労働省社会・援護局に「昭和館運営有識者会議」を設置し、これまでに21回にわたり委員会を開催し、昭和館運営事業の計画概要の意見交換を行っている。

昭和館運営有識者会議委員会 委員名簿

(令和3年3月10日現在 順不同・敬称略)

委員長	波多野 澄 雄	(国立公文書館アジア歴史資料センター長)
委員	山 田 大	(一般財団法人日本遺族会常務理事)
〃	増 田 弘	(立正大学法学部法学科名誉教授)
〃	神 津 カンナ	(作家・エッセイスト)
〃	上安平 冽 子	(NHKグローバルメディアサービス元企画事業部長)
〃	鈴 木 淳	(東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授)
〃	藤 田 琢 治	(練馬区立大泉学園中学校教諭)
〃	松 井 かおる	(江戸東京博物館学芸員)

5 インターンシップ

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。

6 関係施設等連携会議の開催等

関係施設等連携会議（昭和館事務局）を開催するとともに、しょうけい館、平和祈念展示資料館との3館の連携に取り組んでいる。

〔 関係機関：厚生労働省社会・援護企画課、総務省大臣官房総務課管理室
平和祈念展示資料館、しょうけい館、昭和館 〕

- (1) 第18回会議を令和2年10月16日（金）に開催
第19回会議を令和3年2月新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面決議とした。
- (2) 3館連携「夏休み3館めぐりスタンプラリー」実施
令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とした。
- (3) 移動教室「宮崎静夫展 友を悼む」の開催に際して、連携した企画の実施
開催期間：令和3年2月10日（水）～2月16日（火）
主 催：平和祈念展示資料館
協 力：昭和館、しょうけい館
場 所：九段生涯学習館 2階 九段ギャラリー
- (4) 巡回特別企画展の相互協力
 - ・ 岩手県における巡回特別企画展は、しょうけい館、平和祈念展示資料館と同じ会場で同時開催し、連携を図った。
令和2年10月2日（金）～10月11日（日）
 - ・ 鳥取県における巡回特別企画展では、しょうけい館と平和祈念展示資料館についてポスターを掲示する等の周知を図った。
令和2年10月24日（土）～11月3日（火）

V 特別企画展等の開催及び概要

昭和館では、多岐にわたる「戦中・戦後の国民生活上の労苦」を次の世代に伝えるため、常設展示とは違った視点や内容で、特別企画展等を開催している。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、人が密集しないように間隔をあけた展示空間を制作するとともに、YouTube等で展示解説を公開した。

1 戦後75年特別企画展

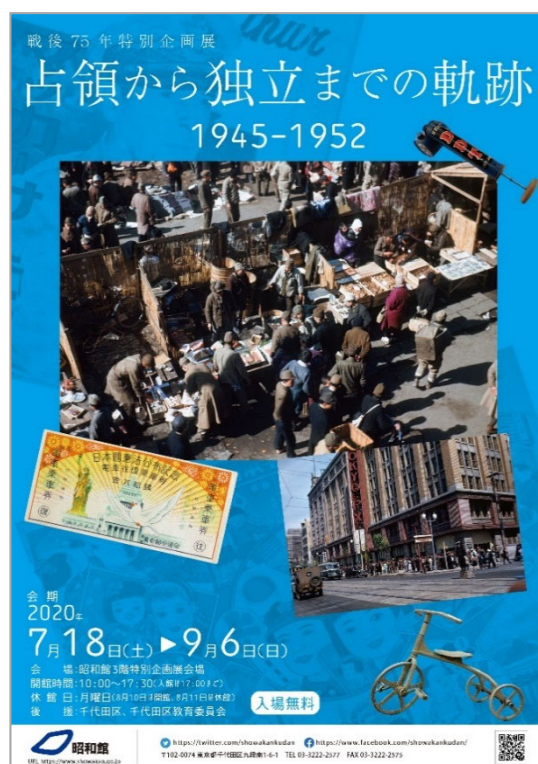
「占領から独立までの軌跡 1945－1952」

終戦から昭和27年4月28日にサンフランシスコ平和条約が発効し、日本が独立を果たすまでの6年8ヶ月間、いわゆる占領期を中心に、戦後日本の社会や生活、文化の移り変わりを紹介した。

開催期間：令和2年7月18日（土）
～9月6日（日）

会 場：昭和館3階 特別企画展会場

入場者数：5,948人（135人／1日）



<展示構成>

プロローグ 昭和20年8月15日

I 占領と改革のはじまり

GHQの日本進駐

接收

五大改革指令

日本国憲法の制定

家父長制の解消

II 占領政策と生活の変容

(1) 生活

食糧事情／住宅事情／公衆衛生／衣料事情

(2) 文化

検閲制度／映画文化の隆盛／スポーツの復活／軍需から民需への転換

III 独立への道

経済政策と統制解除

民間貿易の再開～オキュパイド・ジャパン～

朝鮮特需

サンフランシスコ平和条約

エピローグ

2 特別企画展「丈夫なからだで病を防げ！」

～健康づくりと感染症予防～

昭和における「健康」「からだづくり」をテーマとして取り上げ、病気と快復、運動とからだづくり、食生活と栄養、厚生事業等に関わる資料を紹介した。

開催期間：令和3年3月13日（土）～
5月9日（日）

会場：昭和館3階 特別企画展会場
後援：千代田区 千代田区教育委員会
入場者数：4,332人（117人／1日）
（3月13日～4月24日）

※令和3年4月25日から緊急事態宣言の発令により臨時休館となったため、4月24日を以て終了した。

昭和館特別企画展
「丈夫なからだで病を防げ！」
健康づくりと感染症予防

ナショナル・カイン・ヨシノブ
タベル・テマヘニハ
ミレラ・ヨ
タニハ
ラジオニ
アハセニ
マドカ
ムカヘル
ヨイアケ

11.21 栄養週間
なんでも食べよう子供子供子供
栄養週間生部

全期
2021年
3月13日（土）から5月9日（日）
会場：3階特別企画会場
開館時間：10:00～13:30（入館は13:00まで）
14:00～17:30（入館は17:00まで）
休館日：月曜日（5月3日は開館、5月6日は休館）
後援：千代田区、千代田区教育委員会

昭和館
URL: <https://www.showakan.jp/>

<https://twitter.com/showakankuden> <https://www.facebook.com/showakankuden/>
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1 TEL 03-3222-2577 FAX 03-3222-2575

入場無料

<展示構成>

I. 戦時体制と健康政策

- (1) 厚生省の誕生
- (2) 国民精神総動員運動と健康増進キャンペーン
- (3) 国民体力の向上

II. 健康を求めて～運動・栄養・生活の工夫～

- (1) 「国民病」結核の蔓延
- (2) ラジオ体操の普及
- (3) 食糧事情と栄養事情

III. 占領期の健康政策

- (1) 公衆衛生
- (2) 深刻な食糧難と栄養改善運動
- (3) 子どもたちの健康

エビローグ

3 特別企画展の YouTube 公開

新型コロナウイルス感染拡大防止にともない、令和2年3月に開催中止となった特別企画展「SF・冒険・レトロフューチャー～ぼくたちの夢とあこがれ～」の展示解説を6月6日から8月21日までの間、YouTube および昭和館1階ニュースシアターにて公開した。10月1日より常時YouTube での視聴が可能となった。



4 1階ロビーでの資料展示

1階ロビー資料公開コーナーのテーマに合わせて、実物資料の展示を実施した。令和3年1月5日から6月30日にかけて、「美しさを求めて～昭和の化粧品～」と題したミニ展示を開催した。

また、月ごとに資料を入れ替えながら、兵庫県西脇市在住の人形作家村上しま子さんの人形作品を展示している。

5 写真展

戦後75年特別企画写真展

「東京情景－師岡宏次がみた昭和－」

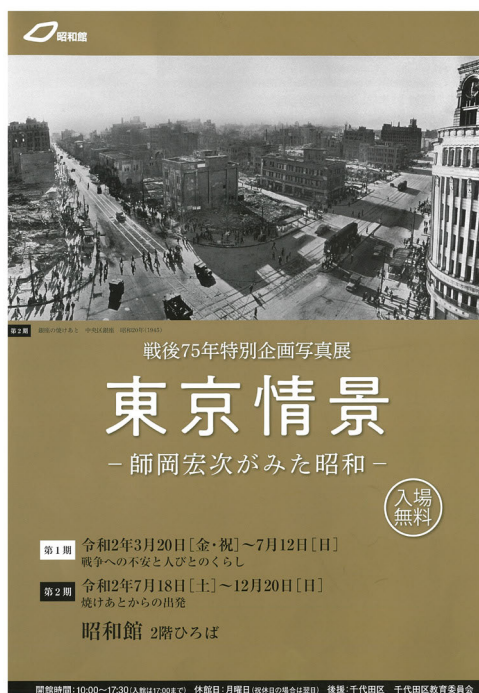
第2期 焼けあとのからの出発

開催期間：令和2年7月18日（土）から12月20日（日）

会 場：昭和館2階広場

展示内容：昭和初期から東京を撮り続けた写真家、師岡宏次の作品を紹介、終戦から復興へと向かう東京を写した作品を展示した

入場者数：13,532人
（約101人/1日）



6 写真展

「マンガ 『風太郎不戦日記』を通して知る戦時下の暮らし」

開催期間：令和3年3月20日（土）から5月9日（日）

会 場：昭和館2階広場

内 容：漫画家勝田文が描いた『風太郎不戦日記』の誌面を通じた戦時下の暮らしと作家山田風太郎と同時代を生きる男子学生たちの青春を所蔵写真から紹介した。

入場者数：4,945人
（約160人/1日）
（3月20日～4月24日）

※ 令和3年4月25日から緊急事態宣言の発令より臨時休館となったため、4月24日をもって終了となった。



7 資料公開コーナー

昭和館が収蔵する映像資料・写真資料（5階）・図書資料（4階）を多くの来館者に利用していただくきっかけになることを目的に、1階ロビーの一角にコーナーを設けて、資料を随時公開している。

令和2年度に紹介した資料の各テーマと期間は、以下の通りである。

実施回	タイトル	期間
第76回	中高校生ポスターコンクール入賞作品展示	令和2年3月31日（火） ～6月28日（日）
第77回	歌詞カードにみるあの頃の映画音楽	令和2年6月30日（火） ～9月22日（火）
第78回	戦後の日本人と米軍キャンプとの交流	令和2年9月24日（木） ～12月27日（日）
第79回	昭和の化粧	令和3年1月5日（火） ～4月4日（日）

注：回数は平成19年度開始以来の通算回数

8 5階ギャラリー展示

令和3年3月20日（土）から開催した写真展「マンガ『風太郎不戦日記』を通して知る戦時下の暮らし」にあわせ、複製原画展「山田風太郎の八月十五日」を開催した。

展示では、作家 山田風太郎の昭和20年8月15日を『風太郎不戦日記』で勝田文さんが描いた原画の複製と、原作となった『新装版 戦中派不戦日記』（講談社, 2002.12）の記録から紹介した。

1 昭和館入場者状況の推移(平成11年度～令和2年度)

	常設展示室										図書室	特別企画展	ニュースシアター	総計	
	大人	高校・大学生	小・中学生	ぐるっとバス	無料	映像・音響室		合計	特別企画展	ニュースシアター					総計
						大人	小・中学生								
平成11年度	84,620	2,479	3,737	-	-	90,836	35,236	19,398	31,142	-	176,612				
平成12年度	40,457	1,973	10,186	-	2,914	55,530	27,661	16,370	24,112	-	123,673				
平成13年度	36,830	2,396	19,739	-	3,610	62,575	38,866	20,616	33,903	65,124	221,084				
平成14年度	29,847	3,373	19,710	-	4,016	56,946	39,286	20,622	26,204	112,402	255,460				
平成15年度	28,802	2,725	22,713	-	5,235	59,475	34,328	19,072	28,953	115,594	257,422				
平成16年度	29,862	3,140	27,162	-	5,592	65,756	33,046	19,573	26,920	112,164	257,459				
平成17年度	30,288	2,596	29,502	-	6,265	68,651	35,416	19,449	35,611	124,259	283,386				
平成18年度	28,407	2,919	25,504	-	6,363	63,193	29,225	18,465	35,848	125,484	272,215				
平成19年度	26,845	3,611	27,519	-	7,605	65,580	32,683	17,617	66,280	133,564	315,724				
平成20年度	23,469	3,245	31,847	-	6,082	64,643	32,101	17,270	45,719	119,418	279,151				
平成21年度	20,997	2,412	28,736	2,540	6,059	60,744	29,787	19,898	40,627	115,523	266,579				
平成22年度	21,076	2,605	28,051	2,102	5,194	59,028	28,388	19,011	53,423	105,242	265,092				
平成23年度	18,400	3,347	24,067	1,815	4,868	52,497	28,410	19,130	55,293	88,989	244,319				
平成24年度	19,340	2,644	24,419	1,662	5,206	53,271	33,092	20,984	83,568	99,329	290,244				
平成25年度	20,952	3,173	24,932	1,636	6,284	56,977	32,653	22,013	68,427	126,225	306,295				
平成26年度	20,367	3,225	33,335	1,894	8,524	67,335	37,692	22,523	104,753	138,008	370,311				
平成27年度	28,352	3,689	34,660	2,559	7,667	76,937	37,252	20,499	163,928	226,440	525,056				
平成28年度	21,932	3,264	33,706	1,913	4,461	65,276	31,007	18,781	95,210	143,326	353,600				
平成29年度	23,737	3,152	44,970	1,795	5,091	78,745	38,110	21,449	149,538	174,407	462,249				
平成30年度	24,890	4,060	34,244	1,818	5,572	70,584	31,176	17,626	141,383	156,586	417,355				
令和元年度	22,094	3,227	30,812	1,730	4,655	62,518	32,285	14,095	115,478	121,684	346,060				
令和2年度	8,117	805	3,792	661	1,695	15,070	10,116	4,573	33,389	7,966	71,114				
合計	609,691	64,060	563,343	22,115	112,958	1,372,167	707,816	409,034	1,459,709	2,411,734	6,360,460				

2 令和2年度利用者実績

(単位：人)

	常設展示室	映像・音響室	図書室	ニュースシアター	特別企画展等	合計	特別企画展等内訳
令和2年 4月	0	0	0	0	0	0	2/28～5/30まで 臨時休館 4/1(3/14～5/10) 特別企画展期間(中止) 4/1(3/20～7/20) 写真展期間4/1～6/1休止
5月	0	0	0	0	0	0	～5/10 特別企画展期間(中止) ～5/30 臨時休館
6月	643	558	243	527	2,140	4,111	6/2～ 戦後75年特別企画写真展 「東京情景-師岡宏次がみた昭和-」第1期
7月	879	741	292	839	2,883	5,634	～7/12 戦後75年特別企画写真展 第1期 7/18～ 戦後75年特別企画展 「占領から独立までの軌1945-1952」 7/18～ 戦後75年特別企画写真展 「東京情景-師岡宏次がみた昭和-」第2期
8月	2,905	1,819	801	1,511	7,672	14,708	
9月	1,310	989	413	810	2,757	6,279	～9/6 特別企画展期間
10月	1,525	1,088	402	729	7,374	11,118	10/2～10/11 戦後75年3館連携企画展 くらしにみる昭和の時代 岩手展 10/16 第18回関係施設等連携会議を開催 10/24～ 戦後75年3館連携企画展
11月	1,666	1,141	535	796	4,029	8,167	～11/3 くらしにみる昭和の時代 鳥取展 11/28 紙芝居定期上演会
12月	2,416	754	421	682	1,458	5,731	～12/20 特別企画写真展期間
令和3年 1月	425	524	352	438	0	1,739	1/5～1/15 常設展示室の資料交換を実施
2月	1,342	1,007	288	667	0	3,304	2/16～2/28 図書室の蔵書点検・資料整理を実施 第19回関係施設等連携会議 令和2年度第2回運営専門委員会
3月	1,959	1,495	826	976	5,076	10,323	3/16～3/19 映像・音響室の資料整理を実施 3/10 第21回昭和館運営有識者会議を開催 3/13～ 特別企画展 3/20～ 写真展 3/27～ 紙芝居定期上演会
合計	15,070	10,116	4,573	7,975	33,389	71,114	

3 常設展示室入場者数

総数	区分	種別	人数	割合(%)
15,070人	有料 9,583人	高・大学生	805人	5.3
		一般	8,778人	58.3
	無料 5,487人	小・中学生	3,792人	25.2
		視察者等	1,001人	6.6
		心身障害者	495人	3.3
		未就学児	199人	1.3

(参考) 団体による来館学校数

総数	区分	学校数	割合(%)
42校	小学校	32校	76.2
	中学校	8校	19.0
	高校	1校	2.4
	専門学校	1校	2.4
	大学	0校	0

4 来館団体御芳名

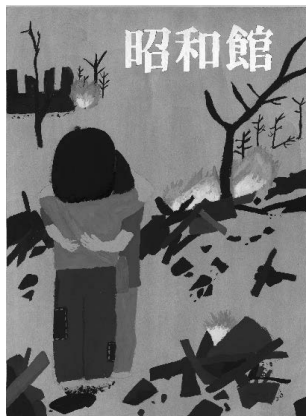
(敬称略)

月 日	団 体 名	人 数
10月15日	墨田区立第四吾嬬小学校6年生	42名
10月30日	世田谷区立桜丘中学校2年生	152名
11月17日	品川区立芳水小学校6年生	66名
11月18日	読売理工医療福祉専門学校	39名
11月19日	品川区立大原小学校6年生	41名
11月20日	調布市立第三中学校2年生	26名
11月25日	北豊島高等学校2年生	34名
11月25日	八王子市立中野北小学校6年生	25名
11月27日	江戸川区立篠崎第三小学校6年生	84名
12月1日	品川区立御殿山小学校6年生	84名
12月1日	江戸川区立臨海小学校6年生	99名
12月1日	中央区立月島第一小学校6年生	63名
12月3日	墨田区立緑小学校6年生	81名
12月3日	墨田区立横川小学校6年生	66名
12月4日	足立区立梅島第一小学校6年生	43名
12月8日	八王子市立第一小学校6年生	72名
12月10日	江戸川区立下小岩第二小学校6年生	27名
12月10日	北区立王子第五小学校6年生	22名
12月11日	埼玉県八潮市立松之木小学校6年生	88名
12月11日	墨田区立東吾嬬小学校6年生	51名
12月11日	江戸川区立南篠崎小学校6年生	93名
12月15日	目黒区立原町小学校6年生	45名
12月16日	北区立西が丘小学校6年生	51名
12月18日	東久留米市立東田中学校2年生	34名
12月18日	杉並区立東田小学校6年生	72名
12月18日	江戸川区立南葛西第三小学校6年生	69名
12月22日	北区立王子第三小学校6年生	58名
12月22日	八王子市立元八王子東小学校6年生	47名
12月22日	墨田区立両国小学校6年生	69名
12月23日	墨田区立外手小学校6年生	65名
12月23日	台東区立根岸小学校6年生	88名
12月24日	江戸川区立新田小学校6年生	38名
12月24日	江戸川区立北小岩小学校6年生	68名
2月18日	大田区立洗足池小学校6年生	62名
3月2日	北区立王子第二小学校6年生	35名
3月9日	世田谷区立松丘小学校6年生	142名
3月9日	調布市立調布中学校2年生	21名
3月10日	大田区立貝塚中学校2年生	70名
3月23日	足立区立中川小学校6年生	92名
3月23日	足立区立第九中学校1年生	30名
3月23日	世田谷区千歳中学校2年生	30名
3月23日	文京区立本郷台中学校1年生	33名

5 第13回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール入賞者作品の紹介
 <入賞作品（優秀賞以上）>



① 最優秀賞
 広島県立尾道東高等学校
 村上 桃花
 【昭和の子どもたちの遊び】



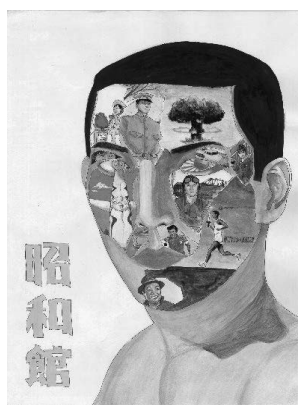
② 優秀賞
 広島県立松永高等学校
 竹中 七海
 【喜びの再会】



③ 優秀賞
 富山第一高等学校
 谷口 和津美
 【昭和の子育て】



④ 優秀賞
 富山第一高等学校
 郷田 風花
 【昭和のおもちゃと子供】



⑤ 優秀賞
 鳥取県立米子西高等学校
 田中 直太朗
 【昭和の記憶】



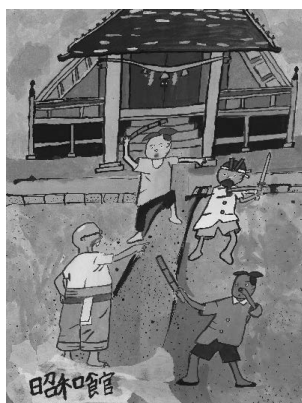
⑥ 優秀賞
 富山第一高等学校
 坂本 岳斗
 【昭和のテレビ】



⑦ 優秀賞
 富山第一高等学校
 魚岸 向日葵
 【昭和の都市風景】



⑧ 優秀賞
 名古屋市立北中学校
 三國 梨湖
 【変わる学生】



⑨ 優秀賞
 周南市立須々万中学校
 田村 海輝
 【寺で遊ぶ子供達】



⑩ 優秀賞
 神奈川県立白山高等学校
 二村 稲夏
 【大変な暮らしの中の安らぎ、幸せ】

6 施設概要

設立趣旨

昭和館は、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、戦没者遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供することを目的として設立された。

具体的には、当時の国民生活の姿を伝える実物資料の展示事業、図書・文献及び映像・音響資料の閲覧事業並びに内外の資料館の概要等に関する関連情報提供事業等の諸事業を進めることにより、戦中・戦後の国民生活上の労苦を様々な視点から総合的に伝えていくこととしている。

昭和館建設の経緯

昭和54年に、財団法人日本遺族会から、戦没者遺児への慰藉のため、「戦没者遺児記念館（仮称）」を建設して欲しいという要望が、当時の橋本厚生大臣に提出された。

これを契機として、戦後に生まれた世代が国民の過半数を占め、今日の繁栄の礎となった戦没者の遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えることを目的に、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、各界有識者の参加のもと、「戦没者遺児記念館（仮称）」建設の検討が進められた。

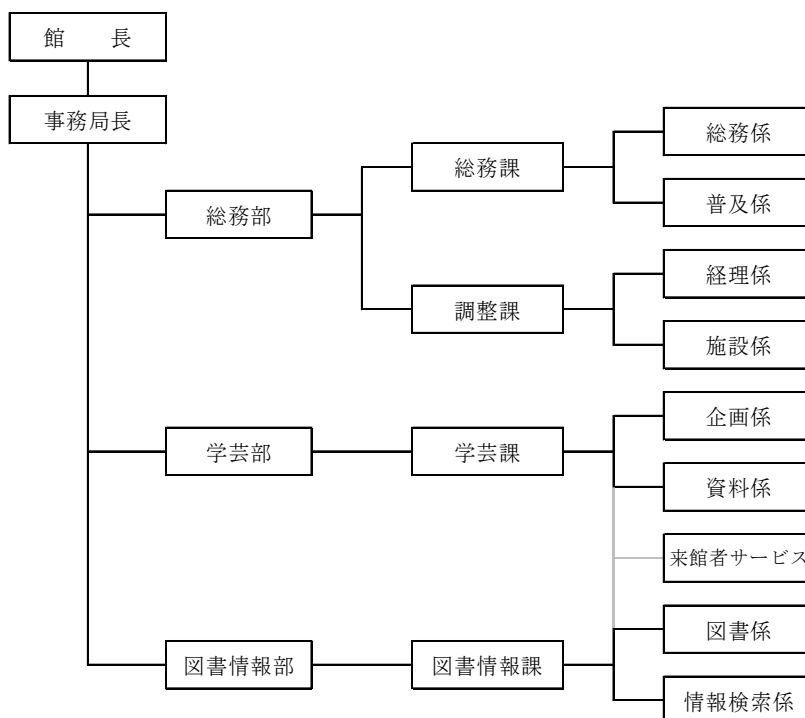
平成5年に、「戦没者追悼平和祈念館（仮称）」として厚生省（当時）予算に建設費が計上された。その後、有識者等からさまざまなご意見をいただき、平成10年12月末に竣工した。館の名称は、「昭和館」とされ、平成11年3月末に開館した。

なお、一般財団法人日本遺族会が厚生労働省から委託を受け、館の運営に当たっている。

施設

面積	敷地面積	2,138㎡			
	延床面積	8,514.11㎡			
構造種別	S造（鉄骨造）一部SRC造（鉄骨鉄筋コンクリート造）				
階数	床面積（㎡）	主な用途	収容人員（人）	避難施設	備考
R階	206.04	機械室		避難階段	
7階	792.05	常設展示室（入口）	135	避難階段	戦中の国民生活
6階	795.37	常設展示室（出口）	142	避難階段	戦後の国民生活
5階	797.61	映像・音響室	63	避難階段	情報検索
4階	798.03	図書室 書庫	52	避難階段	図書閲覧 図書収蔵庫
3階	799.6	研修室・会議室	120	避難階段	特別企画展時は会場に使用
2階	718.61	広場		避難階	（臨時出入口）
1階	1288.42	資料公開コーナー エントランスロビー ニュースシアター 受付・総合案内・事務室	69 34	避難階	昭和館出入口
B1階	1011.42	資料収蔵庫 防災センター 機械式駐車場		避難階段	実物・図書資料収蔵（低温管理）
B2階	1306.96	機械室 機械式駐車場		避難階段	
合計	8514.11		615		

組織



7 令和2年度寄贈者御芳名

本年度に、資料をご寄贈くださいました方のお名前を記して御礼といたします。

図書資料寄贈者

[団体]

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
北海道	釧路市遺族会
〃	釧路市立博物館
青森県	青森県近代文学館
〃	青森県立郷土館
宮城県	仙台市歴史民俗資料館
〃	東北歴史博物館
山形県	米沢市上杉博物館
福島県	福島県立博物館
茨城県	茨城県立歴史館
埼玉県	埼玉県平和資料館
〃	川越市立博物館
千葉県	鎌ヶ谷市郷土資料館
〃	国立歴史民俗博物館
〃	市立市川歴史博物館
〃	野田市郷土博物館
〃	歴史認識問題研究会
東京都	HOSEIミュージアム事務室
〃	JCIIフォトサロン
〃	クマヒラ
〃	しょうけい館
〃	すみだ郷土文化資料館
〃	たばこと塩の博物館
〃	みずき書林
〃	一般財団法人 古賀政男音楽文化振興財団 古賀政男音楽博物館
〃	一般社団法人 日本郷友連盟
〃	株式会社 吉川弘文館
〃	株式会社 講談社 ヤングマガジン編集部
〃	公益財団法人 海原会
〃	公益財団法人 水交会
〃	公益財団法人 通信文化協会 博物館部(郵政博物館)
〃	公益財団法人 東京都歴史文化財団
〃	荒川区立荒川ふるさと文化館
〃	株式会社 国民みらい
〃	三鷹市立山本有三記念館
〃	昭和女子大学光葉博物館
〃	杉並区立郷土博物館
〃	戦争と萬葉集研究会
〃	大妻女子大学博物館
〃	中央区立郷土天文館
〃	東京家政学院生活文化博物館
〃	東京都公文書館
〃	東京都写真美術館
〃	東京都博物館協議会
〃	二松学舎大学附属図書館
〃	日本カメラ博物館
〃	日本経済評論社
〃	日本大学企画広報部広報課
〃	板橋区立郷土資料館
〃	武蔵大学学芸員課程
〃	文京ふるさと歴史館
〃	法政大学史センター
〃	防衛省防衛研究所戦史研究所
〃	北区飛鳥山博物館

都道府県	寄贈者名
東京都	明治学院大学国際平和研究所
〃	明治大学史料館センター
〃	靖國神社 遊就館
神奈川県	JICA海外移住史料館
〃	横浜みなと博物館
〃	横浜市史料館
〃	横浜都市発展記念館
〃	公益財団法人 馬事文化財団
〃	神奈川県立神奈川近代文学館
〃	戦時下の小田原地方を記録する会
〃	大磯町郷土資料館
〃	平塚市博物館
〃	明治大学平和教育登戸研究所資料館
富山県	富山市郷土博物館
〃	富山市民族民芸村
石川県	石川県立美術館
福井県	福井県立若狭歴史博物館
〃	福井県立歴史博物館
長野県	重要文化財旧開智学校校舎
静岡県	沼津市歴史民俗資料館
〃	島田市博物館
〃	浜松市博物館
愛知県	ノリタケの森運営・企画グループ
〃	安城市歴史博物館
〃	瀬戸蔵ミュージアム
〃	豊田市戦没者遺族連合会
〃	名古屋市博物館
三重県	四日市市立博物館
滋賀県	滋賀県平和祈念館
京都府	立命館大学国際平和ミュージアム
大阪府	一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
〃	大阪歴史博物館
和歌山県	和歌山県立紀伊風土記の丘
島根県	松江歴史館
岡山県	岡山空襲展示室
愛媛県	愛媛県歴史文化博物館
福岡県	福岡県教育庁教育総務部文化保護課
〃	福岡市美術館
大分県	大分県立先哲史料館
〃	大分市歴史資料館
宮崎県	みやざき歴史文化館
鹿児島県	知覧特攻平和会館
沖縄県	ひめゆり平和祈念資料館
〃	沖縄県平和祈念資料館

図書資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
福島県	小室 智子
〃	渡 邊 一 雄
茨城県	岩 見 晁
埼玉県	原 一 代
〃	高 谷 紘 子
〃	今 吉 孝 夫
〃	紙 地 光 子
〃	中 村 利 光
〃	白 尾 常 子
〃	本 多 英 男
〃	鈴 木 千 鶴 子
千葉県	古 宮 保 子
〃	高 井 三 郎
〃	寺 門 隆 夫
〃	神 戸 留 美 子
〃	田 中 明 子
〃	服 部 晁
〃	鈴 木 光 壽
東京都	岡 田 昇
〃	狭 間 真 由 美
〃	原 剛
〃	根 本 圭 助
〃	佐 々 木 直 人
〃	若 菜 一 仁
〃	小 川 幸 代
〃	小 川 駿

都道府県	寄贈者名
東京都	小 谷 千 尋
〃	森 純 一
〃	星 田 言
〃	川 口 泉
〃	曾 根 清 吉
〃	増 田 良 子
〃	大 野 益 弘
〃	巽 裕 子
〃	谷 中 淳 子
〃	仲 井 富
〃	鳥 山 直 人
〃	天 羽 德 実
〃	日 比 恆 明
〃	保 坂 育 子
〃	峯 元 和 代
〃	木 村 隆 治
〃	鈴 木 昇 一
神奈川県	岡 龍 夫
〃	下 重 清
〃	荒 木 恵 子
〃	香 川 芳 文
〃	新 島 幸 子
〃	早 川 純 香
〃	大 堀 聰
〃	鷹 野 次 長
〃	林 修

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
長野県	坂 口 浩
〃	竹 村 淳
〃	富 井 盛 雄
静岡県	山 崎 喜 与 実
〃	小 池 善 之
愛知県	加 藤 美 幸
〃	小 林 光 昭
大阪府	白 國 哲 司
〃	平 田 葉 子
兵庫県	村 上 し ま 子
奈良県	辻 千 尋
島根県	若 杉 愛
〃	須 田 英 典
岡山県	杉 岡 康 男
長崎県	土 肥 原 弘 久
鹿児島県	上 原 哲 男

映像・音響資料寄贈者

[個人]

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
宮城県	川 島 東
埼玉県	末 吉 哲
〃	原 一 代
〃	堀 越 一 美
千葉県	鈴 木 光 壽
〃	中 谷 伸 子
東京都	師 岡 文 男
〃	船 津 英 夫
〃	森 純 一

都道府県	寄贈者名
神奈川県	長 澤 珪 橙
静岡県	山 口 直 子
大阪府	白 國 哲 司
〃	平 田 葉 子
〃	辺 見 佳 永
宮崎県	渡 邊 一 弘

昭和館館報 第22号 (令和2年度)

令和3年7月発行

編集発行 昭和館

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1

電話03 (3222) 2577